

実践8 「泥団子を作ろう！」

概要 手が汚れることを躊躇していた3歳児の子どもが、泥と出会い自ら触れる姿や、泥団子作りに熱中する4・5歳児の子どもたちの遊びの姿から、「科学する心」の育ちを捉えた実践です。

ポイント 園独自の「科学する心を育てる」視点をキーワードに読み取った子どもの姿に添って、細やかな保育者の援助がされています。また、友達との共有の場の工夫、可視化の工夫、じっくり取り組める時間の保障や自由に追求できる場など、様々な環境の工夫が「科学する心」の育ちを支えています。泥仕上げの砂をあえて出さなかったことが子どもの思考や試行につながり、子ども自身が環境を活かす姿に成長しています。

南陽市立赤湯幼稚園

3～5歳児

あそびあい・・・「出会い」や友達との関わりにワクワクドキドキを感じ、夢中で遊び込む
 かんがえあう・・・じっくり考え、試したり、友達と考えを出し合いながら、体験を重ねる
 ゆたかなころ・・・物や人と関わり、感じた事を表現したり、目標に向かい粘り強く挑戦する
 ※「科学する心を育てる」キーワードとして事例に照らし合わせる

場面1：「泥って気持ちいいな♪」 3歳児

○保育者の援助 ●環境構成



- 4月、砂場に初めて入ったAさん。「ちょっと触ってみようかな。ウワ…（汚れるのはちょっと…）」と、手が汚れることを躊躇している。保育者はAさんの思いを汲み取り、側で触れて見せる。しばらく考えていたがAさんは、『シャベルで触ってみよう！』とひらめき、道具を持ち出し泥に入れる。4歳児が作った池で水と砂をクルクル混ぜたり、シャベルを持ち上げたりしながら、片付けまで黙々と遊んだ。
- 雨上がりの園庭に出てみると…
Aさんは、「あっ！水溜まり発見！！」と駆け出す。初めての泥との出会いから、砂や泥にたっぷり触れて遊んだことで、手が汚れることへの躊躇はないようだ。園庭の真ん中の水たまりで黙々と手で泥を集め二輪車に入れる。「泥って面白い！」
- 保育者や友達と一緒に安心して「やってみたい！」を試す。手が泥だらけでも平気。子どもと保育者は、「うわー、泥って温かいね（あつたかい）！」「どうして温かいんだろうね？」「お日様で温かいのかな？」「泥ってべたべたするね！」などと感じたこと、考えたことを伝え合う。一緒に楽しむ仲間が増える。
- 水溜まりの泥の感触を楽しむBさん。掌に載せ、さらに反対の掌に載せることを何度も繰り返していた。「あっ！」と気づいたことを言葉にする。「泥ってポタポタしてる！」さらに、「ペッタン、ペッタン…餅つきみたい！」などと、自分の発見、感じたことをニコニコと保育者に話しながら、見せる。
保育者は、「先生にもやらせて…本当だ！！」と思いを共有する。
- 数日後、園庭の水溜まりの跡に水を流し、泥を手で丸め始めたAさん。見ていたBさんも関心をもち一緒に泥を丸め始める。
- 保育者も泥を手に取り、一緒にやってみる。5歳児と交流し、見て真似て「やってみよう！」とする。「できた！」と、掌サイズの泥団子を嬉しそうにビニール袋に入れてもらい大切にしていた。

- 興味をもち出したA児に「気持ちいいよ」などと保育者も一緒にやってみる。
- 黙々と夢中になるA児を見守りながら、言葉にならない思いを汲み取る。砂や水、泥の感触にたっぷり触れ、楽しめるようにする。
- 「面白いね」と共感したり、A児の思いをさらに引き出す声がけをしたりする。「もっと！」につなげるための工夫を考える。

- 保育者も一緒に触り、子どもの気づきをさらに引き出す声がけをし、思考する力を育む。
- 保育者は子どもの気づきを一緒に体験し、共感することから、「もっと！」の意欲につなぐ。
- 遊びのスペース確保について、職員で話し合い共通認識を図る。決まりや約束を子ども自身が自分ごととして考え、園庭での「やりたい！」を共有できるようにする。

場面2：「ピカピカ光る泥団子作ろう！」 5歳児



- 「色つき泥団子を作りたい！」と取り組んでいた子どもたちだったが、実現することはできなかったものの、今度は、「光る泥団子を作りたい」との思いで、仕上げの砂を探し始めた。
- いろいろな場所で泥団子を磨いて試してきた子どもたちだったが、「しっとり」する砂に会い、夢中でかけて磨いている。
Fさんが「みんな来てー！！僕も宝の砂見つけたよー！」と誘う。「どこー？！」とみんなで走り出す。Fさん「ここ（滑り台下）も宝の砂！カチカチになる砂だよ」とDさんは、「僕はここ（畑）が宝の砂！ここで作ると黒くなるよ」と、それぞれ報告していた。

- 今年度、仕上げの砂は置かない（思考・比較・探究する力が育まれるのでは、と職員で共有する）。
- 仕上げの砂に適した場所を比較し、思考する姿を認め、共感する。
- 子どもの気づきや発見を友達と教え合う姿を認める。



- ・この日の降園前の発表タイムには、泥団子を作ったことを話したい子どもたちがズラリと並び、「**光りました**」「**壊れました。でも、ピカピカ光るきれいな泥団子を作りたいので、もう一回挑戦しました!**」など、**わくわくドキドキの思い**を一人一人が**自分の言葉**で話した。

～「緑の布より青い布の方が光るよ」～

- ・それぞれの場所で仕上げの砂をかけ、光る素が出るまでひたすら親指で磨く。布で仕上げるタイミングを図り、いよいよ仕上げ！Dさんは用意されている緑と青の2枚の布で磨き、どちらが光るかを比較していた。「ウワッ！ **緑より青い布の方が光るよ**」保育者は、「どうして緑より青の方が光ったの？」と尋ねた。Dさん「青い布の方が厚いから？ ツルツルだからかな？」とDさんになりて考えたことを話してくれた。青い布で磨き続けるとどんどんツヤが出てきた。心揺り動かされたDさんから**豊かな言葉**が次々に溢れ出した。「**ウワッ！ こんなに光ってきた!**」と言って、さらに磨き続ける。「**ピカピカになってきた!**」「**ウワー!! まじでピカピカ!! 最高!!**」

～「泥団子職人、現る!」～

- ・「(布で)もう磨いてもいいかな?」「まだじゃない?」「もうちょっと砂かけないとダメだよ。壊れる」「お父さん指(親指)でいっぱい磨くとキラキラの素が出てくるからそれまでダメ」Dさんは、「布は、緑の布の方がいい」Eさんは、「青い布の方が光るよ。まじで光るよ」まるで泥団子作り職人のような会話。
- ・自分が分かったこと、感じたことを**教え合う**。**友達のアイデアやアドバイスを参考にしながら、さらに「自分のいいこと」を発見**している。**みんなで「ピカピカ光るきれいな泥団子」を作るために。**

～雨の日でも磨ける場所発見～

- ・ある日、「先生、雨でも磨ける場所見つけた!」とEさんが呼びに来る。「ほら、**屋根があるから雨が降ってもここの砂は濡れない。屋根があるから暑くないし**」この発見は**園全体**に広がり、**3歳児、4歳児も一緒に**磨くようになった。

～泥団子名人、誕生!～

- Dさんは、「見て!」と、みんなに見せる。子どもたちは、「ウワッ! 光ってる!!」「Dちゃん、**子どもの泥団子名人だ!!**」「**できた! ピカピカ光るきれいな泥団子!**」と、Dさんの泥団子のきれいさに驚いたり、認めたりした。

- 「みんなに教えたい!」の意欲に応える、発表タイムの場面をつくる。
- 仕上げの布はこれまでの教材の工夫からジャージ素材のものを準備している。新たに、色の違う(青)ものを準備したが、微妙に厚みや質感の違いがある。
- 比較し、感じた事を伝える姿に応える。「先生はどっちの布にしようかな?」

- 砂のかけ方やタイミング、磨き方の工夫をする姿を認めながら、さらに「もっと!」の意欲につながる遊びの姿を支えていく。
- これまでの体験や知識を生かして、雨でも磨ける場所に気づいた姿を認める。
- 友達の完成を自分事のように喜び合う子どもたちの姿を受け止めた。言葉や表情の中に、これまでの頑張りや、諦めずに粘り強く挑戦したから育まれた豊かな心、柔軟な心を読み取り受け止めた。

[考察] 3歳児: 初めは手が汚れることを躊躇した子どもたちも、じっくり遊び込める時間と場を保障したことにより自から土や泥、水に関わり「やってみたいな」から「やってみよう!」の心の変容を見取ることができた。初めての園生活に「出会う」3歳児にとって、保育者や友達と安心できる信頼関係を築き、安心できる居場所(園・クラス・友達・保育者)を創ることの重要性を再確認できた。

3歳児は初めての『もの』との出会いに心が揺り動かされ「やってみたい!」と意欲がうまれる。保育者は子どもの思いに寄り添い、触れる、感じる、考える体験をたっぷり楽しめる環境を大事にしたことから「科学する心」が芽生え、育まれた。泥や水にたっぷり触れたことから泥団子への興味も高まった。

5歳児: 日々の遊びの積み重ねや発表タイムがきっかけになり、実現したい泥団子作りのイメージが明確になった。「ピカピカ光る、きれいな泥団子を作りたい」を実現するため、仕上げの砂を比較し、探究し、伝え合う中に、主体的・対話的で深い学びにつながる「あそびあい、かんがえあう、ゆたかなこころ」の姿がみられた。

・保育者は「やってみたい!」を実現しようとする過程や問題を解決しようと真剣に試行錯誤する姿に寄り添い、支えた。心揺り動かされた瞬間の言葉や、学級での発表タイムから共に学び合い、遊びの質を高めていくことが、「科学する心」を育てると考える。